

## 第2回特別研修会／歯科衛生士とのコラボレーション

# 歯周治療から学ぶインプラント治療成功のパイロットと 歯科衛生士の役割

講師：伊藤公一(日本大学教授)，坂井雅子(歯科衛生士・日大歯学部)

日時：平成22年10月3日(日)

場所：東京ステーションコンファレンス

高井 貞浩 (群馬県)



平成22年10月3日(日)第2回CISJ特別研修会(歯科衛生士とのコラボレーション)が東京ステーションコンファレンスにて開催されました。

講師は日本歯周病学会理事長である伊藤公一日本大学教授と日本大学歯学部附属病院歯科衛生士の坂井雅子先生でありました。

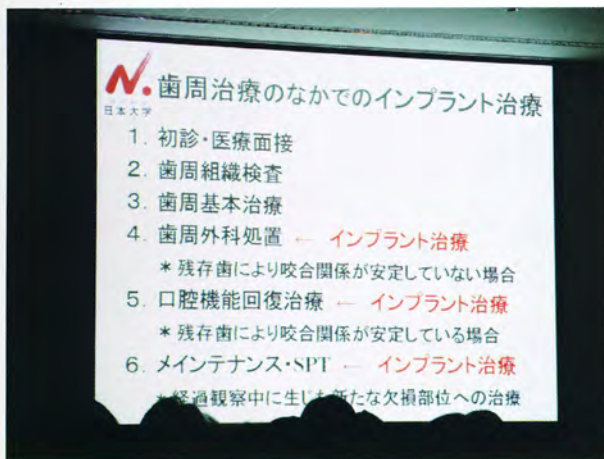
「歯周治療から学ぶインプラント治療成功のパイロット」のタイトルにて、午前の部ではPart 1



として、伊藤教授から歯周治療の最前線として講演が行われました。歯周病は、プラーク中の細菌によって起こる感染症であり、感染源であるプラーク中の菌をスケーラーなどで機械的に除去するとともに、抗菌剤や殺菌剤を使用することで治癒が期待できるという基本原則のもと、歯周炎の危険因子の一つである細菌因子の除法についてプラークコントロールの重要性を説明され、機械的プラークコントロール、化学的プラークコントロール、生物学的プラークコントロールについて詳細な解説がありました。また、歯周基本治療を成功させるには情報収集、現状把握、分析、問題点抽出が大事であり、プラークリテンションファクターを改善することの重要性のお話がありました。

午後の部では「歯周治療におけるインプラント治療成功のための歯科衛生士の役割」について坂



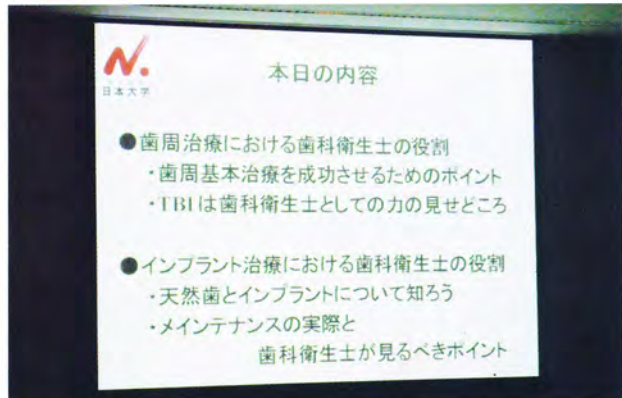


井先生の講演が行われました。

歯周病患者のインプラント治療における歯科衛生士の役割は、医療面接から始まり、歯周基本治療時のTBIとSRP、歯周外科手術やインプラント一次手術、二次手術における器材の準備や後片付け、器材の管理、外科手術中のアシスタントをはじめ、インフォームドコンセントの補助、術前術後のプラークコントロールやインプラント上部構造装着後からスタートするメインテナンスなど幅広く、多岐にわたり、また、メインテナンスにおいて歯科衛生士は、全身状態とリスクの把握、歯周組織の診査、インプラント周囲組織の炎症の有無、咬合状態と上部構造の破折やネジの緩みの確認、セルフケアのチェックと指導、プロフェッショナルケアを行う必要があるとのお話がありました。

その後、Part 2では「インプラント治療に生かす歯周治療の基本」の講演がありました。

インプラント治療において、欠損部顎骨にインプラントを正確に埋入することが長期にわたりインプラントを成功させるうえで重要であるが、歯の喪失によって顎骨は吸収、退縮すると共に、角化粘膜を含む周囲軟組織も狭小化し、正常な形態を喪失することが多く、プラークコントロールも困難となる。そこで、インプラント埋入に際しては、骨および軟組織を十分考慮し、上部構造および咬合の回復を図ることが重要となり、硬、軟両組織をいかにマネジメントするかが、インプラント治療の予知性を左右する因子の一つとなるということを、症例を中心に解説されました。



今回の研修会は歯科衛生士とのコラボレーションであったため、ベーシックな内容が非常にわかりやすく、毎日の臨床を再度見つめ直す非常に良いきっかけとなる有意義な一日となりました。